

該当クラス：普通科・理数科・美術科

1 単元 現代評論「虚ろなまなざし」岡 真理

2 単元の目標	3 評価規準
<p>読むこと</p> <p>◎筆者の問題意識を把握する。(I)</p> <p>◎我々が「虚ろなまなざし」に耐えかねる理由を整理し、被害者としての自分を他者に同一化することの暴力性を理解する。(C)</p> <p>◎ヒューマニズムという言葉で語られる行動の主体化の功罪について考える。(C)</p> <p>書くこと</p> <p>◎社会問題の中からテーマを決めて意見を書く。(E)</p>	<p>読むこと</p> <p>①一枚の写真とそれを巡る出来事に対する筆者の問題意識を把握することができたか。</p> <p>②我々が難民の子どもの「虚ろなまなざし」に耐えかねる理由と、被害者としての自分を他者に同一化することの暴力性について理解することができたか</p> <p>③ヒューマニズムという言葉で語られる行動の主体化の功罪について考えることができたか。</p> <p>書くこと</p> <p>④社会問題の中から適切なテーマを設定し、自分の意見を書くことができたか。</p>

4 授業計画

授業回	学習項目	時間	学習内容	評価方法	評価規準
第1回	学習プリントの自己採点	1	事前に配布済みの学習プリントの自己採点	提出プリントによる確認	① ～ ④
第2回	事前に集約した学習プリントに関する質問項目	1	動画による質問に対する内容解説	定期考査等	① ～ ③

評価については、上記の提出プリントの他、定期考査による評価も行う。

該当クラス：普通科・理数科・美術科

1 単元 現代評論「陰翳礼讃」谷崎潤一郎

2 単元の目標	3 評価規準
<p>関心・意欲・態度</p> <p>◎日本文化の変容について関心を持って調べたり、考察したりする。(E)</p> <p>読むこと</p> <p>◎日本文化の魅力について理解する。(I)</p> <p>◎筆者の研ぎ澄まされた感覚を読み取ることができたか。(C)</p> <p>◎読者の共感を誘う、工夫された筆者の特徴的な表現を理解する。(I)</p> <p>書くこと</p> <p>◎学習プリントの設問に対する解答として、適切な言葉を使用する。(I)</p>	<p>関心・意欲・態度</p> <p>①本評論をきっかけに日本文化に対する関心を深め、現代の生活において陰翳の在り方がどのように変容しているか、関心を持って調べたり、考察したりすることができたか。</p> <p>読むこと</p> <p>②筆者が述べる日本の漆器・料理の魅力を、具体例に即して理解することができたか。</p> <p>③薄暗い昭和初期の日本家屋の夜を想像しながら、筆者がどのように感覚を研ぎ澄ましているか読み取ることができたか。</p> <p>④特徴的な表現をもとに、五感を駆使し、読者の共感を誘う筆者の工夫を理解することができたか。</p> <p>書くこと</p> <p>⑤学習プリントの設問に対する解答として、適切な言葉を使用しているか。</p>

4 授業計画

授業回	学習項目	時間	学習内容	評価方法	評価規準
第1回	プリント第1回学習範囲	1	語句及び問題（5題）	提出プリントによる確認	①～⑤
第2回	プリント第2回学習範囲	1	語句及び問題（6題）	提出プリントによる確認	①～⑤
第3回	プリント第3回学習範囲	1	語句及び問題（7題）	提出プリントによる確認	①～⑤
第4回	プリント第4回学習範囲	1	学習の手引き及び自己評価	提出プリントによる確認	①～⑤

評価については、上記の提出プリントの他、定期考査による評価も行う。

該当クラス：普通科

1 単元 日記『更級日記』菅原孝標女

2 単元の目標	3 評価規準
<p>読むこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎平安女流日記文学の特徴を理解する。(I) ◎平安時代の人々の生活や仏教に対する意識を学ぶ。(I) ◎古語や敬語の知識を活用して、正確に口語訳する。(C) <p>言語事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎読解の基礎となる古典文法を理解する。(I) 	<p>読むこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ①平安女流日記文学の特徴を理解することができたか。 ②平安時代の人々の生活や仏教に対する意識を学ぶことができたか。 ③古語や敬語の知識を活用して、正確に口語訳することができたか。 <p>言語事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ④読解の基礎となる古典文法を理解できているか。

4 授業計画

授業回	学習項目	時間	学習内容	評価方法	評価規準
第1回	学習プリントの自己採点	1	事前に配布済みの学習プリントの自己採点	提出プリントによる確認	① ～ ④
第2回	事前に集約した学習プリントに関する質問項目	1	動画による質問に対する内容解説	定期考査等	① ～ ④
第3回	事前に集約した学習プリントに関する質問項目	1	動画による質問に対する内容解説	定期考査等	① ～ ④

評価については、上記の提出プリントの他、定期考査による評価も行う。

該当クラス：普通科

1 単元 日記『蜻蛉日記』

2 単元の目標	3 評価規準
<p>関心・意欲・態度 ◎平安時代の結婚制度や夫婦の在り方を、現代と比較しながら学ぶ。(I)</p> <p>読むこと ◎古語や敬語の知識を活用しながら、正確に口語訳する。(C)</p> <p>◎作者の心の動きを繊細な文章と和歌を通して読み取る。(C)</p> <p>言語事項？ ◎読解の基礎となる古典文法を理解する。(I)</p>	<p>関心・意欲・態度 ①平安時代の結婚制度や夫婦の在り方を、現代と比較しながら学ぶことができたか。</p> <p>読むこと ②古語や敬語の知識を活用しながら、正確な口語訳ができたか。</p> <p>③作者の心の動きを繊細な文章と和歌を通して読み取ることができたか。</p> <p>言語事項 ④読解の基礎となる古典文法が理解できているか。</p>

4 授業計画

授業回	学習項目	時間	学習内容	評価方法	評価規準
第1回	本文通読 学習プリント P1～P2	1	平安時代の特徴 和歌について 本文口語訳(古典文法の確認等)	提出プリントによる確認	① ～ ④
第2回	学習プリント P3～P4の⑥まで	1	本文口語訳(古典文法の確認等)	提出プリントによる確認	① ～ ④
第3回	学習プリント P4の⑦～P5	1	本文口語訳(古典文法の確認等) 自己評価	提出プリントによる確認	① ～ ④

評価については、上記の提出プリントの他、定期考査による評価も行う。

該当クラス：普通科

1 単元 逸話 「不顧後患」(『説苑』)

2 単元の目標	3 評価規準
<p>読むこと</p> <p>◎語彙や句形の知識を確認しながら正確な書き下しや口語訳を心がける。(C)</p> <p>◎小孺子の説得の巧みさを理解する。(C)</p> <p>◎呉王はなぜ荊を討つことをやめたのか、そのわけを考える。(C)</p>	<p>読むこと</p> <p>①語彙や句形の知識を確認しながら、正確な書き下しと口語訳ができたか。</p> <p>②小孺子の説得の巧みさが理解できたか。</p> <p>③呉王はなぜ荊を討つことをやめたのか、そのわけを考える。</p>

4 授業計画

授業回	学習項目	時間	学習内容	評価方法	評価規準
第1回	本文通読 学習プリント P1～P2の⑥	1	書き下し文 本文口語訳(漢文句法の確認等)	提出プリントによる確認	① ～ ③
第2回	学習プリント P2の⑦～P3の⑩まで	1	書き下し文 本文口語訳(漢文句法の確認等)	提出プリントによる確認	① ～ ③
第3回	学習プリント P3の⑫～P4	1	書き下し文 本文口語訳(漢文句法の確認等) 自己評価	提出プリントによる確認	① ～ ③

評価については、上記の提出プリントの他、定期考査による評価も行う。

熊本県立第二高等学校 3学年「世界史B」シラバス(5月分)

1. 単元 第1章オリエントと地中海世界(1)古代オリエント世界(2)ギリシア世界(3)ローマ世界

2. 単元の目標	3. 評価規準
【知識・技能】 ・西アジア世界の地理的特質を把握し、オリエント文明の盛衰、イラン人の活動を理解する。 ・地中海一帯の地理的特質を把握し、エーゲ文明、ギリシア・ヘレニズム文化の特徴を理解する。 ・都市国家から大帝国に発展したローマ文明の特質を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 ・オリエントの影響を受けたギリシア・ローマ文明の意義を探究する。	【知識・技能】 ① 教科書に掲載されている地理的名称、人物、各文明の資料を理解できている。 ② 地中海一帯の地理的特質、ギリシア文明の基盤になったポリス世界について基本的な知識を身に付けている。 ③ ローマ帝国化の過程やローマ法、皇帝理念、キリスト教などについて把握し、基本的な知識を身に付けている。 【思考・判断・表現】 ④ オリエントの古代文明の現代にまで与えている影響の大きさを考察する。 ⑤ ギリシア文明やローマ文化がのちのヨーロッパ世界に与えた影響を理解する。

4. 授業計画

授業回数	学習内容	学習内容	評価方法	評価規準
①	第1章 1古代オリエント①オリエント世界の風土と人々 ②シュメール人の都市国家	教科書16～18を読み、整理ノート6を仕上げる。	学校再開後、整理ノートを提出	①④
②	③メソポタミアの統一と周辺地域の動向 ④エジプトの統一国家	教科書18～21を読み、整理ノート6～9を仕上げる。	学校再開後、整理ノートを提出	
③	⑤東地中海世界の諸民族 ⑥古代オリエントの統一	教科書21～24を読み、整理ノート9～12を仕上げる。	学校再開後、整理ノートを提出	①④
④	⑦パルティアとササン朝の興亡 ⑧イラン文明の特徴	教科書25～26を読み、整理ノート12～13を仕上げる。	学校再開後、整理ノートを提出	
⑤	2. ギリシア世界 ①地中海世界の風土と人々 ②エーゲ文明	教科書27～29を読み、整理ノート14を仕上げる。	学校再開後、整理ノートを提出	④
⑥	③ポリスの成立と発展 ④市民と奴隷 ⑤アテネとスパルタ	教科書29～31を読み、整理ノート14～16を仕上げる。	学校再開後、整理ノートを提出	②⑤
⑦	⑥民主政への歩み ⑦ペルシア戦争とアテネ民主政 ⑧ポリスの変容	教科書32～35を読み、整理ノート16～18を仕上げる。	学校再開後、整理ノートを提出	③
⑧	⑨ヘレニズム時代 ⑩ギリシアの生活と文化	教科書35～40を読み、整理ノート18～21を仕上げる。	学校再開後、整理ノートを提出	⑤
⑨	3. ローマ世界①ローマ共和政 ②地中海制服とその影響 ③内乱の一世紀	教科書40～44を読み、整理ノート22～23を仕上げる。	学校再開後、整理ノートを提出	②
⑩	④ローマ帝国 ⑤3世紀の危機 ⑥西ローマ帝国の滅亡	教科書44～47を読み、整理ノート24～25を仕上げる。	学校再開後、整理ノートを提出	②③
⑪	⑦キリスト教の成立 ⑧迫害から国教化へ ⑨ローマの生活と文化	教科書47～51を読み、整理ノート26～29を仕上げる。	学校再開後、整理ノートを提出	⑤
⑫	教科書p201～p330の見直し (2年次履修した分・やってない部分は独自に進める。)	教科書201～330を読み、整理ノート112～193を仕上げる。	学校再開後、整理ノートを提出	

【学習方法】

- ①教科書を見ながら整理ノートを埋める
 - ②内容を資料集、参考書(各自で探そう)、動画(classiの学習コンテンツ動画はおすすめ)
 - ③ネットなどを使い、歴史用語・人物を理解する。ネットで世界史一問一答があるので、アウトプットしてください。
- 【上記の範囲の整理ノートを完成させて、休校明けに提出】

第二高等学校 3 学年「日本史 B」普通科・理数科・美術科シラバス (5 月分)

1. 単元 1-2 農耕社会の成立 1-3 古墳とヤマト政権
2-1 飛鳥の朝廷 2-2 律令国家への道 2-3 平城京の時代 2-4 天平文化

2. 単元の目標

(1-2) 農耕社会の成立

- *大陸からの稲作伝播の様子や地域性の顕著な道具の分布を踏まえて弥生文化の形成を考察する。
- *集落・墓の変容から富の蓄積を理解し、小国が形成される過程を東アジア世界との交流と関連付けて考察する。

(1-3) 古墳とヤマト政権

- *地域の首長の出現から統一国家に至る過程を、古墳の変容からとらえる。
- *ヤマト政権による国家の形成過程について、東アジア世界との関係を踏まえて考察する。
- *古墳時代後期～終末期の変容と、ヤマト政権の政治制度を理解する。

(2-1) 飛鳥の朝廷

- *ヤマト政権の権力争いや大陸文化の摂取に着目して、飛鳥時代を考察する。

(2-2) 律令国家への道

- *律令国家が成立するまでの政治の動向と白鳳文化の形成過程について考察する。
- *律令に基づく国内統治体制について理解する。

(2-3) 平城京の時代

- *律令体制の完成期としての奈良時代を、律令体制の状況を多角的・多面的にとらえて考察する。
- *平城京における政治動向について、土地政策も含めて考察する

3 評価規準

	①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③資料活用の技能	④知識・理解
(1-2) 農耕社会 の成立	弥生文化の成立過程やその社会の特色について関心を持ち、日本列島における政治的・地域的な統合が進んでいった歴史的背景を意欲的に追究しようとしている。	弥生時代に農業生産が始まり、階級社会への移行が進んだこととによって、各地で小国の分立へと展開したことを考察し、自らの考えを適切に表現している。	弥生時代の遺跡から出土した土器や金属器などの考古学的遺物から情報を読み取るとともに、弥生時代後半の中国との交渉について、文献史料から情報を正確に読み取っている。	農耕文化・金属文化としての弥生文化の特色や人々の暮らしの様子と、中国史書にみえる倭人の社会に関する知識を身に付けている。
(1-3) 古墳とヤ マト政権	古墳文化の展開と深い関連をもつ大和王権の成立過程について関心を持ち、王権が作りだした支配制度の特色や大陸から伝来した新しい思想や文物などについて課題を設定し、意欲的に追究しようとしている。	大和王権が成立した背景や中国との交渉の目的、長期間にわたる古墳文化の時期ごとの特色などを考察し、自らの考えを適切に表現している。	対外交渉に関しては好太王碑などの金石文や倭の五王に関わる中国史書の内容を適切に読み取り、古墳文化に関してはその構造や副葬品の特色などについての情報を考古学的遺物から正確に読み取っている。	大和王権の成立背景や氏姓制度・部民制度に代表される支配構造に関する知識を身に付け、弥生文化とは異なる古墳文化の展開や新たな大陸文化の伝来について理解している。

	①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③資料活用の技能	④知識・理解
(2-1) 飛鳥の朝廷	厩戸王や蘇我馬子が推古朝で進めた改革や初代飛鳥の関心と意欲的であろうとしている。	6世紀に大和政権が直面した課題について、東アジア世界の大きな変動が自らの考を適切に表現している。	推古朝の国政改革について、憲法十十七条の派遣を記録する文獻史料を解するのと同時に、飛鳥文化の世界性を刻などの作品を通じて読み取っている。	大和王権が東アジアの大きな動揺を推したことを理解し、飛鳥の改革に身についている。
(2-2) 律令国家への道	大化の改新のクーデターを経て律令国家が形成されていく過程に国家課題を追究しようとしている。	中央集権的な律令国家の確立までの大化の改新や壬申の乱などの大きな変革を考察し、自らの考を適切に表現している。	律令国家の形成に向けた課題について、改新の詔の史料情報とともに、官制などから律令国家の特色を読み取っている。	大化の改新を国令たる政治的事業として理解し、国家の知識を身に付けている。
(2-3) 平城京の時代	平城京における貴族や庶民の生活に関心をもち、国際色が豊かな文化の代々の課題を追究しようとしている。	奈良時代の政治が激しい争いを生んだ背景や、奈良時代の文化や果たした役割を考察し、自らの考を適切に表現している。	平城京における人々の暮らしについて、平城京の図や復元された建造物、出土した木簡などの資料を活用して適切に読み取っている。	平城京における人々の暮らしについて理解し、中央集権体制のしくみや奈良時代に関する知識を身に付けている。

4. 授業計画

授業	内容	教科書ページ	整理ノートページ	評価の基準
1	弥生文化の成立、弥生人の生活	p15～19	8～9	①③
2	小国の分立、邪馬台国連合	p19～22	10～11	②③
3	古墳の出現、前期・中期の古墳	p23～25	12～13	③④
4	東アジア諸国との交渉～古墳文化の変化	p26～29	14～15	②④
5	古墳時代の人々の生活～ヤマト政権と政治制度	p29～33	16～17	③④
6	ヤマト政権の発展、飛鳥の朝廷と文化	p34～37	18～19	①④
7	大化の改新～白鳳文化	p38～41	20～21	②④
8	大宝律令と官僚制、民衆の負担	p41～44	22～23	③④
9	遣唐使、奈良の都平城京、地方官衙と境界	p44～49	23～24	①④
10	藤原氏の進出と政界の動揺、	p49～52	26～27	②③
11	民衆と土地政策、天平文化と大陸、国史編纂と『万葉集』	p52～56	26～29	③④
12	国家仏教の展開、天平の美術	p56～59	28～29	③④

【学習方法】

- ①教科書を見ながら整理ノート（配付のプリント）を埋める
- ②内容を図説、参考書（各自で探そう）、動画（classiの学習コンテンツ動画はおすすめ）で深める
- ③10分間テスト、研究ノートで理解を確認する

【上記の範囲の整理ノートを完成させて、休校明けに提出】

評価について

Classiのwebテスト・アンケート等の解答を用いる。
休校後に提出する、プリント、ノート類の提出を用いる。

熊本県立第二高等学校 3学年「地理B」シラバス (5月分)

1. 単元 (1) 林業・水産業 (2) 生活文化と民族・宗教

<p>2. 単元の目標</p> <p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな森林資源の利用方法や、主要漁場の成立・発展の条件と特色について理解させる。 ・人種や言語、宗教の違いを理解させる。 ・世界各地の人種、民族の違いによる対立を理解させる。 <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人種や言語・宗教の違いがなぜ対立の原因となるのかを考えさせる。 	<p>3. 評価規準</p> <p>【知識・技能】</p> <p>A. さまざまな森林資源の利用方法や、主要漁場の成立・発展の条件と特色について理解させる。</p> <p>B. 人種や言語、宗教の違いを理解する。</p> <p>C. 世界各地の人種、民族の違いによる対立を理解する。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>D. 人種民族問題についてのレポートを作成し、現在の状況についても考察する。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>E. 計画を立て実施し取組を振り返ることができる。</p>
---	---

4. 授業計画

授業回数	学習内容	学習内容	評価方法	評価規準
①	林業	・教科書 p97 ・要点ノート p62～p63 を教科書、資料集などを参考に完成。	登校再開後に提出。	A
②	水産業	・教科書 p98～p99 ・要点ノート p64～p67 を教科書、資料集などを参考に完成。	登校再開後に提出。	A
③	①, ②の復習	・地理力UPノート p38 Check-2, p39 Work-2 を、①, ②を振り返り、完成。	登校再開後に提出。	E
④	衣食住	・教科書 p164～p169 ・要点ノート p122～p123 を教科書、資料集などを参考に完成。	登校再開後に提出。	E
⑤	人種	・要点ノート p124～p125 を教科書、資料集などを参考に完成。 ・南アフリカ、アメリカ、オーストラリアの人種問題、いずれか1つについて調べ(インターネット等の使用も可)、5/11の登校日配付のプリントにレポートをまとめる。	登校再開後に提出。	B D
⑥	言語	・教科書 p170～p171 ・要点ノート p126～p127 を教科書、資料集などを参考に完成。	登校再開後に提出。	B
⑦	宗教	・教科書 p172～p173 ・要点ノート p128～p129 を教科書、資料集などを参考に完成。	登校再開後に提出。	B
⑧	④～⑦の復習	・地理力UPノート p60～p61 を、④～⑦を振り返り、完成。	登校再開後に提出。	E
⑨	民族問題1	・教科書 p176～p177 ・要点ノート p130 [16] までを教科書、資料集などを参考に完成。 ・パレスチナ問題について調べ(インターネット等の使用も可)、5/11の登校日配付のプリントにレポートをまとめる。	登校再開後に提出。	C D
⑩	民族問題2	・教科書 p176～p177 ・要点ノート p130 [17] ～p131 までを教科書、資料集などを参考に完成。	登校再開後に提出。	C
⑪	難民問題等	・要点ノート p132～p133 を教科書、資料集などを参考に完成。	登校再開後に提出。	C
⑫	⑨～⑪の復習	・地理力UPノート p64～p65 を、⑨～⑪を振り返り、完成。	登校再開後に提出。	E

レポートについて

5月11日の登校日に配付されるプリント(A4サイズ)に従って、レポートを作成。
 ⑤南アフリカ共和国、アメリカ合衆国、オーストラリア、いずれか1つの国の人種問題について調べて、レポートを作成する。書籍や映画、インターネット等の引用、資料添付も可。ただし、引用元を明記すること。
 ⑨パレスチナ問題について調べて、レポートを作成する。書籍や映画、インターネット等の引用、資料添付も可。ただし、引用元を明記すること。

課題の提出および評価について

レポートについては、プリントに記載された期日にクラスでまとめて、担当者に提出。
 要点ノート、地理力UPノート、教科書(マーカーやアンダーラインを引くこと)は、登校再開後の授業で回収する。登校再開後、授業内で休校期間中の学習内容に関する小テストを実施する。

第二高等学校 3学年「政治経済」シラバス（5月分）

1. 単元 日本国憲法

2. 単元の目標	3. 評価規準
<p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本国憲法の成立過程と本旨を理解する ・日本国憲法の人権編を理解する ・日本国憲法における平和主義を理解する ・日本国憲法の統治編の一部を理解する <p>【思考力, 判断力, 表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・明治憲法と比較して捉える <p>【学びに向かう力, 人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画を立て、実施し、取組を繰り返す。 	<p>【知識・技能】</p> <p>①該当箇所の理解ができたことを問題集で確認する</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>②資料集の内容を理解できたかどうかを問題集で確認する。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>③計画を立て実施し取組を繰り返すことができる。</p>

4. 授業計画

授業回	学習項目	時間	学習内容	評価方法	評価規準
第1回	日本国憲法の成立過程	1	時間割で示した該当ページを熟読する	事前に渡してある問題集による確認テスト	①②
第2回	憲法人権編	計6	時間割で示した該当ページを熟読する	事前に渡してある問題集による確認テスト	①②
第3回	平和主義	1	時間割で示した該当ページを熟読する	事前に渡してある問題集による確認テスト	①②
第4回	憲法統治編	計3	時間割で示した該当ページを熟読する	事前に渡してある問題集による確認テスト	①②

第二高等学校 3学年文系「数学Ⅱ・数学応用」シラバス（5月分）

1. 教材 キートレーニング数学演習ⅠⅡA B

2. 学習の目標

- ① 1、2年の既習事項の完全理解を図り、様々な角度から問題を考察する。
- ② 数学的なものの見方や表現および処理ができる能力を養成し、それらを活用する態度を育てる。

数学は与えられた条件下で課題の解決を目指し、柔軟に考えて試行錯誤を繰り返す能力を育てる教科である。自ら考え解決することの良さを理解し、予習により課題を掘り起こし、復習で仕上げることを大切にしたい。

3. 学習の取り組み方

- ① 問題を自分なりに考え、解いておく。
- ② 教科書やチャートなどで基礎的な事項を確認する。
- ③ わからない内容や解けなかった問題を整理しておく。
- ④ 解答解説を見て、自分の答案を丁寧に添削し、別の解法の理解にもつとめる。
- ⑤ 解けなかった問題や間違った問題は、その日のうちに解き直す。
- ⑥ 理解不十分な問題については、Classiを使って質問するなど、完全理解に向けて行動する。

4. 評価基準

評価規準	I (Ideas)	C (Connections)	E (Extensions)
関心・意欲 ・態度	問題の根底にある考え方に関心をもつ。	数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用している。	数学的な考え方に基づいて判断しようとする。
見方・考え方	問題を把握することができる。	既習内容を組み合わせ活用したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることができる。	各問題を数学的に考察し表現し、数学的な見方や考え方を身に付けている。
技能	既習内容を習得できており活用できる。	問題を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能技術を身に付けている。	類題や発展問題にも知識技能を応用できる。
知識・理解	基礎的な定義や定理、法則などの知識を身に付けている。	概念を理解できている。	基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解・踏襲し問題を解くことができる。

5. 授業計画

授業		学習内容	
7日	⑤	数学Ⅰ	P 4 式の計算
8日	⑤	数学Ⅱ	P46 二項定理、整式の除法
12日	③	数学Ⅰ	P 6 式の値
13日	①	数学Ⅱ	P48 恒等式、等式・不等式の証明
14日	②	数学ⅠⅡ	P4, 6, 46, 48の内容確認
15日	⑤	数学Ⅰ	P 8 1次不等式
18日	⑤	数学Ⅱ	P50 複素数とその計算
19日	③	数学Ⅰ	P10 命題と集合
20日	①	数学Ⅱ	P52 剰余の定理・因数定理
21日	②	数学ⅠⅡ	P8, 10, 50, 52の内容確認
22日	⑤	数学Ⅱ	P54 点と直線
26日	③	数学Ⅰ	P12 関数とグラフ
27日	①	数学Ⅱ	P56 曲線と直線
28日	②	数学Ⅰ	P14 関数の最大・最小
29日	⑤	数学ⅠⅡ	P12, 14, 54, 56の内容確認

熊本第二高等学校 3学年普通科文系「生物応用」シラバス (5月7日～15日分)

1. 単元 第5章 生態系とその保全 第1節 生態系とその成り立ち

2. 単元の目標	3. 評価規準
<p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 多様な生物がそれを取り巻く環境とともに生態系をつくっていることを理解する。 生物は生産者や消費者に分けられ、それぞれの役割を担っていることを理解する。 個体数や生物量を栄養段階が下位のものから重ねるとピラミッド状になることを理解する。 <p>【思考力, 判断力, 表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生態系がどのようなものであるかを把握し、生態系の保全の重要性を認識する。 <p>【学びに向かう力, 人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 計画を立て、実施し、取組をふり返る。 	<p>【知識・技能】</p> <ol style="list-style-type: none"> 多様な生物がそれを取り巻く環境とともに生態系をつくっていることを理解できる。 生物は生産者や消費者に分けられ、それぞれの役割を担っていることを理解できる。 個体数や生物量を栄養段階が下位のものから重ねるとピラミッド状になることを理解できる。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ol style="list-style-type: none"> 生態系がどのようなものであるかを把握し、生態系の保全の重要性を認識できる。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ol style="list-style-type: none"> 計画を立て、実施し、取組をふり返ることができる。

4. 授業計画

授業回	学習項目	学習内容	評価方法	評価規準
第1回	1A 生態系 1B 作用と環境形成作用 1C 生態系における生物の役割 2A 食物連鎖と食物網 2B 生態ピラミッド	<ul style="list-style-type: none"> 教科書P182～187を読む。 アクセス生物基礎(P78)を参考にし、ノートに要点をまとめる。 	後日、ノートを提出 定期考査	(1) (2) (3) (4) (5)
第2回	同上	<ul style="list-style-type: none"> 研究ノート <ul style="list-style-type: none"> P118 ウォーミングアップ(1)～(4) P119 基本問題 109～110 P122 基本問題 114 必修アクセス生物基礎 P82 導入問題(1)～(5) 	提出 定期考査	(1) (2) (3) (4) (5)
第3回	同上	<ul style="list-style-type: none"> 必修アクセス生物基礎 P86～P90 基本問題 58～68 	提出 定期考査	(1) (2) (3) (4) (5)

※ 第2回と第3回の問題をルーズリーフ用紙に解き、自己採点后に訂正をして登校日に提出してください。

熊本県立第二高等学校 3学年「地学発展」シラバス (5月7日～5月15日分)

1. 単元 (1) 地球のエネルギー収支 (2) 大気の大循環

2. 単元の目標	3. 評価規準
<p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地球全体の熱収支や大気の大循環とそれによる地球規模の熱の輸送について理解する。 <p>【思考力, 判断力, 表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地球全体のエネルギー収支について考える。 緯度によるエネルギー収支の違いについて考える。 <p>【学びに向かう力, 人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 計画を立て、実施し、取組をふり返る。 	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①地球全体のエネルギー収支が釣り合っていることを理解できる。 ②緯度によるエネルギー収支の違いについて理解できる。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ③地球全体のエネルギー収支について考えることができる。 ④緯度によるエネルギー収支の違いについて考えることができる <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ⑤計画を立て実施し取組をふり返ることができる。

4. 授業計画

授業回	学習項目	学習内容	評価方法	評価規準
第1回	地球のエネルギー収支	<ul style="list-style-type: none"> NHK 高校講座「第29回～大気の大循環～」動画視聴、学習メモ pdf を読む。 教科書P121～P123を読む。 Navi&トレーニングP52 2、P53の問題番号64を解く。 Navi&トレーニングP54、P55の問題番号65、66、67を解く。 	<ul style="list-style-type: none"> Classi の web テスト Navi&トレーニングの内容を用いる。 定期考査 	①③ ⑤
第2回	熱の輸送、空気にはたらく力と風、高気圧と低気圧熱の輸送	<ul style="list-style-type: none"> 教科書P124～P125を読む。 Navi&トレーニングP56、P57の問題番号68、69、70を解く。 	<ul style="list-style-type: none"> Classi の web テスト 振り返りアンケート Navi&トレーニングの内容を用いる。 定期考査 	②④ ⑤

第二高等学校 3 学年「コミュニケーション英語Ⅲ」シラバス（5 月分）

1. 単元 長文読解（歴史・文化）

2. 単元目標	3. 評価規準
<p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史・文化についての英文を読み、正しく理解する。 ・語法や構文についての知識を増やす。 ・文中の語彙や表現を正しく理解する。 <p>【思考力, 判断力, 表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・論旨展開を理解し、要約する。 ・テーマについて自分の意見を表現する。 <p>【学びに向かう力, 人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画を立て、実施し、取組をふり返る。 	<p>【知識・技能】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①歴史・文化にテーマについての英文を正しく理解できる。 ②語法や構文について知識を増やし理解できる。 ③文中の語彙や表現を正しく理解できる。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ol style="list-style-type: none"> ④論旨展開を理解し、要約することができる。 ⑤テーマについて自分の意見を表現できる。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ol style="list-style-type: none"> ⑥計画を立て実施し取組をふり返ることができる。

4. 授業計画

授業回	学習項目	時間	学習内容	評価方法	評価規準
第1回	長文読解 (Custom)	1	・NEO 現代を読む Unit 1 を解く。 ・単語・熟語確認シートで 語彙を確認する。	Classi による 確認テスト	① ② ③
		2	・解答を見て自己採点。 ・本文を3回音読する。 ・補助プリントを解く	Classi による取組の振 り返しアンケート	④ ⑥
第2回	長文読解(Hero)	3	・NEO 現代を読む Unit 2 を解く。 ・単語・熟語確認シートで 語彙を確認する。	Classi による 確認テスト	① ② ③
		4	・解答を見て自己採点。 ・本文を3回音読する。 ・補助プリントを解く	Classi による取組の振 り返しアンケート	④ ⑥
第3回	長文読解 (Accident)	5	・NEO 現代を読む Unit 3 を解く。 ・単語・熟語確認シートで 語彙を確認する。	Classi による 確認テスト	① ② ③
		6	・解答を見て自己採点。 ・本文を3回音読する。 ・補助プリントを解く	Classi による取組の振 り返しアンケート	④ ⑥
第4回	長文読解(Art)	7	・NEO 現代を読む Unit 4 を解く。 ・単語・熟語確認シートで 語彙を確認する。	Classi による 確認テスト	① ② ③

		8	<ul style="list-style-type: none"> ・ 解答を見て自己採点。 ・ 本文を3回音読する。 ・ 補助プリントを解く 	Classiによる取組の振り返りアンケート	④ ⑥
第5回	長文読解 (History)	9	<ul style="list-style-type: none"> ・ NEO 現代を読む Unit 5を解く。 ・ 単語・熟語確認シートで語彙を確認する。 	Classiによる確認テスト	① ② ③
		10	<ul style="list-style-type: none"> ・ 解答を見て自己採点。 ・ 本文を3回音読する。 ・ 補助プリントを解く 	Classiによる取組の振り返りアンケート	④ ⑥
第6回	長文読解 (Language)	11	<ul style="list-style-type: none"> ・ NEO 現代を読む Unit 6を解く。 ・ 単語・熟語確認シートで語彙を確認する。 	Classiによる確認テスト	① ② ③
		12	<ul style="list-style-type: none"> ・ 解答を見て自己採点。 ・ 本文を3回音読する。 ・ 補助プリントを解く 	Classiによる取組の振り返りアンケート	④ ⑥
第7回	長文読解 (Education)	13	<ul style="list-style-type: none"> ・ NEO 現代を読む Unit 7を解く。 ・ 単語・熟語確認シートで語彙を確認する。 	Classiによる確認テスト	① ② ③
		14	<ul style="list-style-type: none"> ・ 解答を見て自己採点。 ・ 本文を3回音読する。 ・ 補助プリントを解く 	Classiによる取組の振り返りアンケート	④ ⑥
第8回	長文読解 (Education)	15	<ul style="list-style-type: none"> ・ NEO 現代を読む Unit 8を解く。 ・ 単語・熟語確認シートで語彙を確認する。 	Classiによる確認テスト	① ② ③
		16	<ul style="list-style-type: none"> ・ 解答を見て自己採点。 ・ 本文を3回音読する。 ・ 補助プリントを解く 	Classiによる取組の振り返りアンケート	④ ⑥

※5月15日(金)、22日(金)、29日(金)にチャックで英単語の確認テストを配信します。生徒は各自で解いて自己採点。

第二高等学校 3学年「英語表現Ⅱ」シラバス (5月分)

1. 単元 英作文

2. 単元の目標	3. 評価規準
【知識及び技能】 <ul style="list-style-type: none"> ・英語の文型の基本を理解する。 ・時制の基本を理解する。 ・無生物主語を含む構文を理解する。 【思考力, 判断力, 表現力等】 <ul style="list-style-type: none"> ・文法事項を踏まえて英語で表現する。 【学びに向かう力, 人間性等】 <ul style="list-style-type: none"> ・計画を立て、実施し、取組をふり返る。 	【知識・技能】 <ul style="list-style-type: none"> ①英語の正しい語順や文型を理解できる。 ②時制の使い分けが理解できる。 ③無生物主語の構文を理解できる。 【思考・判断・表現】 <ul style="list-style-type: none"> ④各文法事項を用いて日本語を英語で表現することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 <ul style="list-style-type: none"> ⑤計画を立て実施し取組をふり返ることができる。

4. 授業計画

授業回	学習項目	時間	学習内容	評価方法	評価規準
第1回	文型	1	・Grow Up! LESSON 1 C~D を解く。	Classi による 確認テスト	① ④
		2	・解答を見て自己採点。 ・間違った箇所を解き直す。	Classi による取組の振 り返しアンケート	⑤
第2回	時制 1	3	・Grow Up! Lesson2 review 和訳、A~B を解く。	Classi による 確認テスト	② ④
		4	・解答を見て自己採点。 ・間違った箇所を解き直す。	Classi による取組の振 り返しアンケート	⑤
第3回	時制 1	5	・時制 1Grow Up! Lesson2 C~D を解く。	Classi による 確認テスト	② ④
		6	・解答を見て自己採点。 ・間違った箇所を解き直す。	Classi による取組の振 り返しアンケート	⑤
第4回	英作文 (第1、第 2文型)	7	・アップリフト英作文 1 を解く。	Classi による 確認テスト	① ④
		8	・解答を見て自己採点。 ・間違った箇所を解き直す。	Classi による取組の振 り返しアンケート	⑤
第5回	英作文 (第5文 型)	9	・アップリフト英作文 2 を解く。	Classi による 確認テスト	① ④
		10	・解答を見て自己採点。 ・間違った箇所を解き直す。	Classi による取組の振 り返しアンケート	⑤
第6回	英作文 (無生物主 語)	11	・アップリフト英作文 3 を解く。	Classi による 確認テスト	③ ④
		12	・解答を見て自己採点。 ・間違った箇所を解き直す。	Classi による取組の振 り返しアンケート	⑤

※5月15日(金)、22日(金)、29日(金)にチャックで英単語の確認テストを配信します。生徒は各自で解いて自己採点。

熊本県立第二高等学校 3 学年「GR・AS」シラバス (5 月分)

1. 単元 (1) テーマ研究の要約

2. 単元の目標	3. 評価規準
<p>【知識・技能】 ①研究の課題が明確に示す。 ②全体を通して論理的な研究を展開する。</p> <p>【思考・判断・表現】 ③客観的根拠を示しながら研究を展開する。 ④文法や表現など適切に英訳する。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 ⑤探究活動の趣旨を理解し、発見した課題を提案する。</p>	<p>【知識・技能】 ①研究の課題が明確に示すことができる。 ②全体を通して論理的な研究の展開ができる。</p> <p>【思考・判断・表現】 ③客観的根拠を示しながら研究の展開ができる。 ④文法や表現など適切に英訳ができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 ⑤探究活動の趣旨を理解し、発見した課題を提案できる。</p>

4. 授業計画

授業回	学習項目	学習内容	評価方法	評価規準
第1回	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・GR・ASⅢの目標について共有する。 ・ワークシートを用いてルーブリック評価について説明する。 ・2年次に行ったテーマ研究について確認し、見直しをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート記載の評価表に基づき、【poor=1, fair=2, good=3, Excellent=4】の4段階で実施。 	①⑤
第2回	テーマ研究の要約 (日本語)	<ul style="list-style-type: none"> ・研究の背景、目的、手法、結果、結論について40～60字程度でまとめる (ワークシート利用) ・目的と結論がつながっているか確認する。 ・次回の英訳に向けて単語を調べる。 (※早くできた人は英訳に入る) 		②③
第3回	テーマ研究の要約 (英語)	<ul style="list-style-type: none"> ・第2回でまとめた項目について10～20語程度でまとめる (ワークシート利用) (※早くできた人は、2人1組で発表をする) 		④

